

三重大大学腫瘍内科：学術研究に関するお知らせ

「胃癌骨転移における ALP flare の検討：観察研究」に関するお知らせ

このお知らせは、当科へ治療相談を受けられた胃癌の患者さんおよびご家族の方に向けてお送りしています。

このたび、当科と鈴鹿中央総合病院、遠山病院の3施設において、骨転移を伴う胃癌の患者さんで、化学療法を受けた場合の治療効果や経過を評価する研究（観察研究）を計画しました。特に、治療途中の血液検査上で観察される alkaline phosphatase（アルカリフォスファターゼ）の flare（フレアー）反応を評価することを主たる目的としております。

研究の内容、方法について

骨転移を伴うがんの治療において、血液検査上、薬物療法開始後に骨形成マーカーである alkaline phosphatase（ALP）が一過性に上昇し、その後低下を認める場合があります、この現象は ALP flare と呼ばれています。ALP flare の発症機序について詳細は現時点では不明です。ALP flare の臨床的意義については、多くのがんで治療効果や予後を予測する因子として有用と報告されています。乳癌では、ALP flare を認める場合は予後良好とされていますが、前立腺癌での検討では、乳癌とは異なり予後不良であったとする報告があります。

胃癌において骨転移は稀なため、ALP flare についての報告はこれまでのところありません。そこで、胃癌の骨転移において ALP flare の頻度とその臨床的意義について検証することを目的とした研究を計画しました。

この研究は、患者さんの年齢、がん組織の特徴、治療内容、検査結果などの情報を診療録から抽出するものです。この研究に関し、患者さんの費用負担、新たな採血検査などの負担は一切ありません。臨床研究は平成 28 年 3 月 31 日まで行う予定です。

この研究の内容および方法は、各施設の倫理委員会での厳正な審査の結果承認が得られ、実施について当学医学系研究科長の承認を得ています。患者さんの診療記録の使用にあたっては、患者さん及びご家族に診療上の不利益などが生じないよう、以下を厳守いたします。

- 医学研究以外には使用しません。
- 患者さんおよびご家族の氏名は公表しません。個人情報厳密に守秘します。
- 研究結果は学会、研究会、学術論文以外では発表しません。
- いつでも同意は撤回可能で、それによって患者さんに不利益を及ぼすことはありません。

この研究からわかったことを学会や論文で発表する予定ですが、診療記録をこの研究に使用してほしくないとお考えの患者さんやご家族の方は、下記の連絡先までご連絡をお願い申し上げます。

この研究代表者

三重大学医学部附属病院腫瘍内科 水野聡朗

住所 〒514-8507 三重県津市江戸橋 2-174

電話 059-231-5016 FAX 059-231-5200